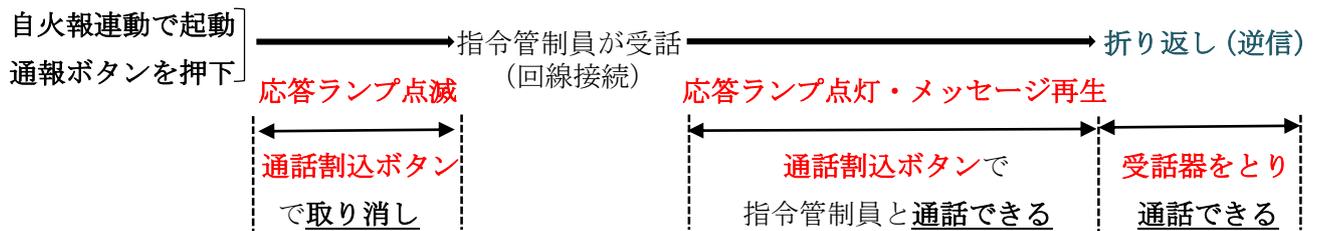


## 火災通報装置の概要



火災通報装置の回線は、固定電話と同じ回線を使用しています。(固定電話使用中に火災通報装置が作動する場合は、固定電話の通話を強制遮断します。)

指令管制員は、通常の119番通報と同じ要領で受信し、メッセージを聞くことで自動通報であることを把握します。

指令管制員はメッセージを聞き終えた後、折り返し(逆信)を行います。数回の呼び出しに出なければ回線を切断します。

この、指令管制員の折り返し(逆進)の信号を火災通報装置が受けることによって、機器の119番通報(自動通報)の一連の動作が終了します。



- 自動火災報知設備連動で火災通報装置が作動した後、**火災**であることを確認した場合は、**火災通報ボタンを押す**ことによって**延焼中**であることが指令室に伝わります。また指令管制員が回線接続中は、**通話割込**または**逆信時**に**受話器**をとって**通話**することが出来ます。
- 非火災(誤報)**の場合は**119番通報**をして指令室に伝えなければ、計画に従った消防車両10数台が到着します。

### メッセージの種類

#### 【自動火災報知設備が作動した時】

ピンポン ピンポン 自動火災報知設備が作動しました

社会福祉 成城1234号 世田谷区成城1丁目2番3号 ○○○○ (事業所名)

逆信してください。

#### 【火災通報ボタンを押した時】

ピピピ ピピピ 火事です 火事です

社会福祉 成城1234号 世田谷区成城1丁目2番3号 ○○○○ (事業所名)

逆信してください。

突然非常ベルが鳴りだした。どうすればいい？  
火災でなかった時の止め方は？

落ち着いてまず火災の有無を確認。火災でなかった時は以下の手順で止めることができます。施設の設備に応じたマニュアルを受信機のそばに貼っておくと安心！

直接通報の場合

- 1 感知器等発報連動による直接通報の作動確認
- 2 火災の有無を確認 受信機の地区表示灯が点灯するので警戒区域図を確認し消火器を携行して、そこへ急行！

ベル鳴動

火災の場合

火災でなかった場合

- 119番通報（火災通報ボタン又は発信機の押しボタン押下）
- 初期消火
- 避難誘導（あれば非常放送を活用）
- 在館者の確認 等

非火災報対応

受信機の地区音響停止（非火災報の確認前にベルを止めない）  
※再鳴動方式の受信機は一定時間経過後鳴動します

119番で消防機関に状況を伝える

発報した感知器 or 発信機を探す。

感知器の場合



作動していた

発信機の場合



押しボタンが押されていた

周囲の状況確認  
応急措置（換気等）により作動原因を取り除く

押しボタンを引き戻す

受信機の火災復旧スイッチを復旧にする（非火災報の確認前に復旧しないこと！）

※ 復旧すると確認灯が消えてしまうので、感知器の位置を覚えて記録しておく。

感知器が特定できない場合は、消防隊が確認するまで復旧操作はしない。（音響停止のみ実施）

屋内消火栓連動の場合

防火戸・防火シャッター連動の場合

屋内消火栓ポンプの停止

巻き上げ、押し戻し等

火災通報装置の概要

応答確認ランプ(赤)

119番および一般通報ダイヤル中、点滅します。応答後は点灯します。

通話割込ボタン

通報取り消しと通話割り込みを行います。

火災通報ボタン

火災時に保護カバーを押し切り、火災通報ボタンを押してください。119番に自動通報します。

① 火災の発生をワンタッチでお知らせ

確認灯がある感知器は確認灯が点灯します



赤く点灯

※折り返しの確認電話

直接通報が作動し通報されると消防機関（指令室）から折り返しの確認電話（逆信）があります。

※割込通話

施設側からは自動通報装置の受話器をとり通話割込ボタンを押せば消防機関（指令室）につながります。

誤ってボタンを押下したことが原因の他、湿気・蒸気・漏水による非火災報が増えています。蒸気や湿気がこもりやすい場所では換気扇・空調設備で換気してください。

原因がわからない時は、非火災報の発生状況を記録して消防設備業者等に相談しましょう。非火災報対策として感知器の種別を変えたりする場合は消防署に相談してください。

